

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アルツハイマー病発症機序の解明並びに
創薬標的の探索に資する新規モデル動物の確立

アルツハイマー病研究部 発症機序解析研究室

関谷 倫子 室長

2020年12月10日(木) 16時00分～

Web 配信により開催します。

参加方法は、メール及び WebOffice の回覧で事前にお知らせします。

人口の高齢化により認知症は大きな社会問題となっているが、その主な原因疾患であるアルツハイマー病は、未だ発症機序が解明されていない。最近では、非侵襲的な早期診断も可能になりつつあり、次に求められるのは診断後の早期介入法である。本研究室では、早期介入法の確立を見据え、アルツハイマー病初期の病態メカニズムの解明に取り組んでいる。特に、アルツハイマー病の引き金になると考えられ、発症の数十年前から脳内への蓄積が始まるアミロイドβペプチドが引き起こす初期の脳内変化を解明するために、ショウジョウバエモデル、マウスモデルを用い研究を進めている。本報告会では、ショウジョウバエを用いたアミロイド蓄積メカニズム解明に向けた取り組みと、アルツハイマー病研究部で行っている国際共同研究の一部、さらにアルツハイマー病の早期介入法の標的同定に向けた研究について報告する。